

国際医療協力室

室長 中原 康雄(小児外科医長)



国際医療協力室ロゴマーク

● 活動目的

1. 『外国人にやさしい病院』を目指して診療体制を構築する。
2. 海外医療協力を推進する。

● 活動の歴史

- 1) 当院では 2005 年 4 月に国際医療協力室が発足した。(臼井外科医長)
その間、医療通訳をはじめとする外国人診療体制の整備を行なってきた。
- 2) 2006 年から 6 年間は厚生労働省国際医療研究を行なった(3 研究)。
 1. (18 指1)ネットワーク機関における外国人診療のあり方に関する研究
 2. (18 公6)胎児から乳幼児に子育てを軸とした継続ケアの構築
 3. (21 指9)海外渡航者及び帰国者のための効果的な診療体制整備に関する研究－(分担) 在日外国人・日本への外国人渡航者の診療体制の構築
- 3) それらをもとにして、2012 年外国人診療の 10 箇条をまとめた。外国人診療に対する基本的な姿勢を述べている。2013 年改訂。
- 4) 外国人医師の研修、海外からの患者の受け入れ、治療、海外での医療支援活動など、海外医療協力を推進している。

● 活動状況

1) 海外医療協力

NPO 中国四国小児外科医療支援機構(本部:岡山医療センター)による活動

2022 年度は 2022 年 5 月、1 月、3 月にカンボジアで、小児がん手術を小児外科チームが渡航して小児固形腫瘍手術、ヒルシュスプルング病手術、代用膀胱手術などを施行した。また、9 月には巨大前縦隔腫瘍の児を当院で受け入れて治療を行った。

カンボジア人医師(シーパン先生)が来日し、10 月から約半年間に渡り、小児外科・外科・呼吸器外科・泌尿器科で外科研修を行った。

2) ジャパンハートとのパートナーシップ協定締結

2022 年 12 月 6 日、今後の国際医療活動協力、国内の医療活動協力に関して協力体制を強化するため協定を締結した。小児外科疾患に限らず、小児内科、周産期、ひいては成人疾患に至るまで、あらゆる分野での国際医療支援に取り組んでいく。



- 3) 当院の外国人診療システム充実のための活動
- 4) 外国人診療の手助け、助言
診療に必要な書類掲示物の英訳・助言など適宜行っている。

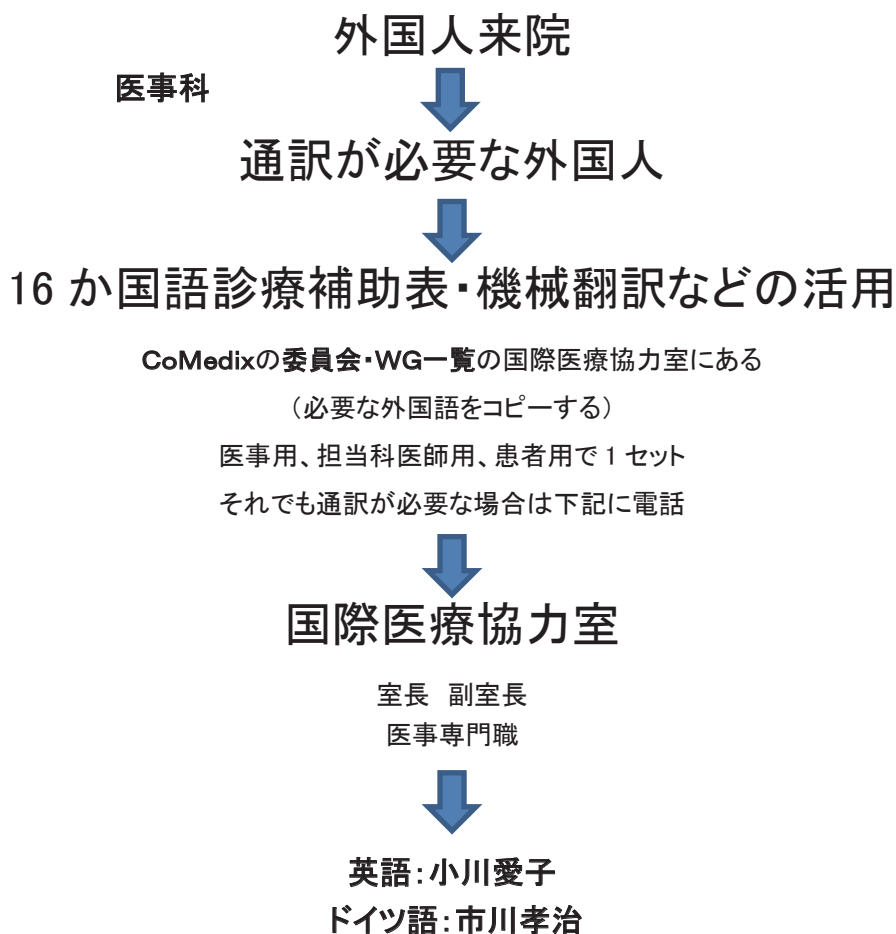
岡山医療センターの外国人診療

- 患者の家族・知人による通訳
上記がない時は地域連携室・国際医療協力室に連絡
- 多言語医学情報ツールの活用
16カ国対応診療補助表など
- 医療通訳の確保
英語は院内
その他の言語は院外から
岡山国際交流センター 中国語・ポルトガル語など

● 外国人診療の手助けに、16か国語診療補助表というのが、以前より救急外来、地域連携室に用意しています。2016年10月にCoMedixの国際医療協力室のところに掲載しています。該当の国の部分をコピーしてお使いください。

● 日本語のわからない外国人への対応図です。

日本語のわからない外国人への対応



(2023年 国際医療協力室)